

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

特別会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	高齢者徘徊SOSネットワーク事業			シート番号	A 一般事務事業
担当部署名	健康福祉	局	長寿社会	部	地域包括ケア推進 課 評価責任者(課長名)
					11-073
					阿加井

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	地域全体で支える福祉の仕組みづくり	有
	2	事業開始年度	平成 26 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	介護保険法			
	4	関連計画	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30(2018)~32(2020)年度)			
5	事業実施の経緯	増加している認知症高齢者への支援体制の充実を図るため、平成25年度に国が「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」を作成し、堺市においても認知症高齢者への支援策の1つとして平成26年度から実施している。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	認知症の高齢者			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	認知症の高齢者が徘徊したときに、高齢者の安全の確保とその家族への支援を行い、地域で安心して暮らせるようにする。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	<事業概要> 徘徊のおそれのある認知症の高齢者等の事前登録を行い、徘徊時に身体的特徴や服装等の情報を協力者に電子メール又はFAXで一斉送信し、公的機関や介護、医療等の事業者や地域住民の協力を得て早期発見に資する取り組み。及び、徘徊するおそれがあるなど、支援が必要な高齢者を地域で見守っていく環境づくりを行う。 <配信までのプロセス> ①徘徊の恐れがある認知症の高齢者の方に事前登録をしていただく。 ②事前登録者が行方不明となった際、利用申請を提出していただく。 ③利用申請を受け付けた市役所は、行方不明となった高齢者の情報を、各区役所、保健センター等の行政機関と、協力している民間企業や市民(交通機関、ショッピングセンター、民生委員会・校区福祉委員会・自治連合協議会の所属者等)に提供し、警察の捜索を補完し、早期発見に協力する。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 () 大阪ガスセキュリティサービス(株)、バイザー(株)				

Ⅲ. 投入量

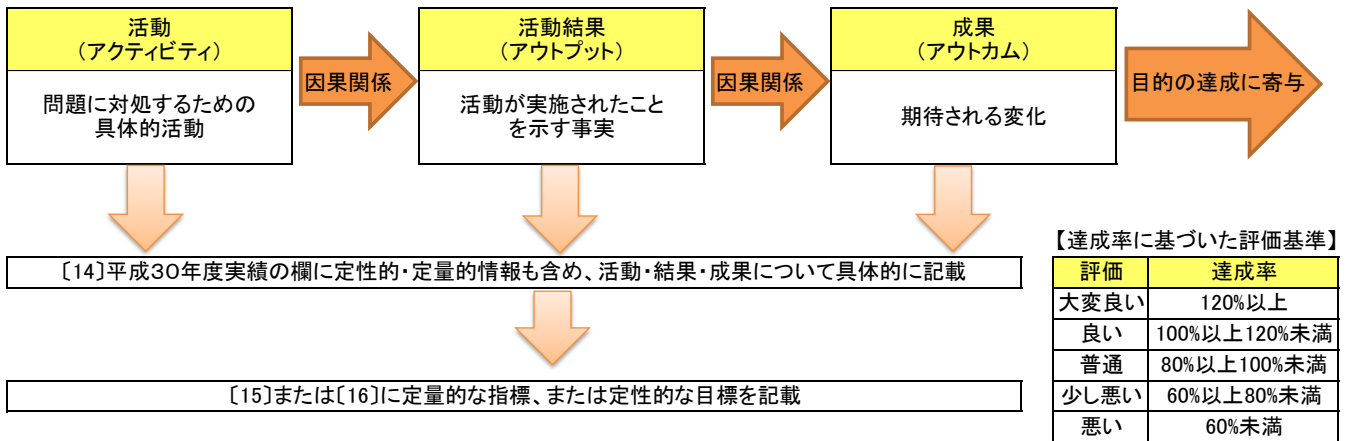
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業費 (a)	千円	583	699	591	1,320	
主な事業費内訳	通信運搬費	千円	324		15	25
	委託料	千円	259	389	259	584
	使用料及び賃借料	千円		310	302	701
	その他	千円			15	10
	国・府支出金	千円	341	409	341	772
	財源内訳	千円				
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円					
市債	千円					
その他(第1号被保険者保険料)	千円	129	154	136	290	
一般財源	千円	113	136	114	258	
12 人件費 (b)	千円	2,460	2,460	2,460	2,430	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	3,043	3,159	3,051	3,750	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	高齢者徘徊SOSネットワーク事業	シート番号	11-073
-------	------------------	-------	--------

≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

ロジックモデルの考え方



事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	<p>平成29年度から実施している大阪府警察が実施する「認知症高齢者等支援対象者情報提供制度」にて情報提供された認知症の疑いがある方に対して見守りメールへの事前登録を促すなど、各地域包括支援センターと連携して登録者を増やし、徘徊時に早期に発見できる体制整備に努めている。 平成30年度は前年度と比較して、メールの事前登録者数が約1.3倍、警察捜査を補完する協力機関数が約1.4倍に増加し、更なる体制整備が進められた。</p>						
		指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	15	事前登録者数	人	目標値	400	400	680	800
				実績値	360	538	684	
				達成率	90%	135%	101%	
				評価	普通	大変良い	良い	
	算出方法・設定根拠など		事前登録者数は累計値					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		協力機関数	件	目標値	20	60	240	300
				実績値	56	179	247	
				達成率	280%	298%	103%	
				評価	大変良い	大変良い	良い	
	算出方法・設定根拠など		協力機関数は累計値					

業績の分析

	17	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
		<p>平成29年4月より、大阪府警察が実施する「認知症高齢者等支援対象者情報提供制度」にて、大阪府警察に保護された堺市内の認知症の疑いがある方の内、行政への相談や支援を求める方の情報が堺市に提供されるようになった。本市においては当該情報提供者に対し、高齢者徘徊SOSネットワークに登録するよう勧めしており、それが平成30年度の事前登録者数の増加につながった。 また、「高齢者見守りネットワーク事業」と連携することにより、協力機関数を増加させることにも成功した。</p>

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。